

1 学年 生徒、保護者の皆様

神奈川県立厚木北高等学校
校長 改田 晃

令和2年度 第1回「生徒による授業アンケート」(1学年)の集計結果等について (報告)

本校の教育活動につきましては、日頃ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。その集計結果を受け、各教科で分析するとともに授業改善への手立てを検討し、研究授業を実施するなど授業の質を今まで以上に高める取組を進めています。

つきましては、各教科における集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧いただき、ご質問、ご意見等、お気づきの点がありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

〔問合せ先 副校長 (046)241-8002〕

1 アンケートの実施日

令和2年8月4日(火)

2 各教科の集計分析・授業改善(概略)

国語	集計分析	授業のあり方については「取り組みやすい授業」「理解度に合わせた授業」「他者の考えを知る機会」という項目で肯定的回答を選んだ生徒が多かった。おおむね肯定的な評価を得ており、生徒に丁寧に対応しているといえる。また、学習の状況については「予習・復習をしている」という項目で、否定的回答を選んだ生徒が50%以上であった。課題や小テストなどの予習を家庭で行っているが、授業内容の予習や復習について積極的に取り組んでいる状況ではないと考えられる。
	授業改善	授業内で生徒自身に考える機会を増やすことで考えを組み立てる力を養うとともに、書く作業を増やすことで、自らの考えを文章でわかりやすく表現する力をつけさせていきたい。また、生徒の予習・復習を促すために、家庭学習の方法を指導したり、学習意欲を高めるような家庭学習用の教材を作ったりすることも考えたい。具体的には授業内容の復習を行う課題を作成するとともに、その内容についての小テストを実施することで授業内容の定着を図りたい。
地歴・公民	集計分析	授業のあり方については、「他者の考えを知る機会」と「考えをまとめたりする場面」で肯定的回答が多く、生徒自身の取り組み状況では「意欲的に取り組んでいる」と「自分の考えを深めることができた」の項目で肯定的回答が多かった。テーマに合わせてグループワークを実施したことが、生徒の学習意欲の向上につながったと分析できた。一方で、「予習・復習をしている」で否定的回答が多く、家庭学習の習慣が身につけていないことが分析できた。
	授業改善	生徒が自ら社会の諸問題について考え、話し合いの中で答えをみつけていく授業を目指す。そのため、まず教材を工夫し生徒が興味関心をもてる授業にする。話し合い活動においては、まず生徒に自身の意見・考えをまとめさせ、より発言の内容を深くし、かつ発言の機会を増やす。また、他の人の意見や考えをよく聞き考えるよう指導していく。さらに、課題を課すなどして、生徒が家庭学習の習慣を身に付けることができるよう指導する。
数学	集計分析	数学Ⅰ、数学Aともに、「意欲的に取り組んでいる」の評価が高い。さらに、「取り組みやすく理解度に合わせた授業」の評価が80%を超えており、習熟度での授業展開が有効であることが伺える。「身についたことを実感できた」という評価も高いことから、基礎・基本の部分の定着が見られる。しかし、数学Ⅰ、数学Aともに、「予習・復習をしている」で肯定的回答が60%程度、「自分の考えを深めることができた」の項目が80%を少し下回っているところを改善点として、2学期以降の授業にいかしていきたい。
	授業改善	数学Ⅰ、数学Aともに、2学期以降の授業では、1学期に学習した内容を発展させた内容を学ぶことになるので、「自分の考えを深めることができた」と実感できる導入の展開や、質疑等を工夫した展開を考えていきたい。また、「予習・復習をしている」の項目では、まずは復習する習慣に主眼を置いて、宿題という形を用いて定期的に振り返りをさせたい。小テストも有効活用し、授業内容の定着度を理解し、さらなる理解度に合わせた授業を心掛けたい。
理科	集計分析	物理基礎では、授業のあり方に関して肯定的回答を得てはいるが、「理解度に合わせた授業」で否定的回答が約15%であった。また、学習状況に関して、「意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答が約80%であり、「予習・復習をしている」では肯定的回答が約55%であった。意欲的に取り組んではいないものの、授業内容への理解が追いつかない生徒が多いようである。生物基礎では、生徒の約80%は意欲的に取り組んでいるが、約45%の生徒が家庭学習を行っていない。また、主体的・対話的で深い学びに関しては、約70%の生徒が肯定的な回答をしていた。
	授業改善	物理基礎では、目に見える教材を使用するとともに身近な現象に言及し、学習内容がどのように役立つかを伝えたり、生徒自身の言葉で発表させて理解を深めさせたりすることで、生徒に興味を持たせるよう改善していきたい。また、生徒の理解度を把握しつつ教材の内容について工夫していきたい。生物基礎では、生徒の自主学習を促すために、生物に対する好奇心を引き出していきたい。また、意欲的に取り組んでいる生徒がさらに主体的・対話的で深い学びを行える授業を心がけたい。

令和2年度 第1回「生徒による授業アンケート」(1学年)の集計結果等について (報告)

保健体育	集計分析	<p>体育・専門体育では、多くの項目において肯定的回答が80%以上と生徒の満足度が高い。生徒の能力や課題に応じたわかりやすい説明や、段階的な指導法の工夫によって、多くの生徒が達成感を得ることができている。</p> <p>武道については、感染症の関係で授業の時間が限られ、柔道では、組んでの練習ができなかったが、基礎基本を大切にされた指導や、礼儀作法の意味などを丁寧に説明しながら授業を行った。多くの項目において肯定的回答が70%以上の満足度であった。基礎基本の習熟度も向上してきたので、感染症対策を取りながら生徒が主体的に取り組めるように授業展開を段階的に工夫していく。</p> <p>保健、スポーツ概論の座学でも、実技科目同様に多くの項目において肯定的回答が80%以上と生徒の満足度が高い。今後、肯定的回答がさらに多くなるように、授業内容を精選していく。</p> <p>スポーツ科学科のある学校として、体育分野を牽引していきたい。</p>
	授業改善	<p>感染症対策は2学期以降も継続されるので、種目についてもその視点から見直し設定する。2学期以降については、生徒自身が課題を見つけ、教えあい、学びあいをすることが状況に応じてできるように、教員の指導に関して情報共有しながら実施していく。</p> <p>また、設定種目や同時展開の場所の工夫などについてさらに検討する。</p>
英語	集計分析	<p>コミュニケーション英語Ⅰ、英語表現Ⅰの授業のあり方、学習の状況に関する各項目において、70%後半～80%以上の生徒から肯定的回答を得ている。生徒自身の取組み状況についても、多くの生徒が肯定的回答をしている。習熟度別の授業展開により、理解力や意欲を高めていると考えられる。しかし、「予習・復習をしている」の項目では、他の項目に比べ否定的回答が高く、日ごろの学習習慣を身につける必要がある。予習復習の習慣化を通して、授業の受け方や学習事項の定着を図る方法を身につけさせ、2学期以降の授業に活かしていきたい。</p>
	授業改善	<p>学習した表現や語彙等を定着させるための家庭学習の習慣を定着させたり、その目標を達成するための課題作成について検討していく必要がある。英語に関する興味を深め、自ら英語学習をする意欲を育成できるような授業改善を図りたい。身につけたことを振り返ることが出来るような時間を設け、何を身につけてきたのかがわかるような授業展開を図っていきたい。また、中学での既習事項に対する理解が乏しい生徒も数多くみられるので、その点についても2学期では扱っていききたい。</p>
家庭	集計分析	<p>約80%の生徒が、授業のあり方、学習の状況ともに肯定的回答をしており、良好な評価を得たと判断している。なかでも「ほぼ当てはまる」と回答した者が50～60%であった。否定的回答をした生徒への対策を考えつつ、さらに、最も割合の大きい肯定的な回答をした生徒に対し、より授業に意欲をもって取り組めるような改善を行なっていきたい。</p>
	授業改善	<p>授業内容を理解し、わかったという達成感を持たせるため、導入の時間を大切にしたい。本時はどのような内容を扱い、何を理解してほしいのか目的を明確にし、生徒が興味を持って取り組める授業を展開していきたい。また、授業内容はつめ込みすぎず、生徒が主体的にしっかり考えられる教材を準備したい。理解度を確認しながら、多くの生徒が満足できるような授業改善を行なっていきたい。</p>
芸術	集計分析	<p>「取り組みやすく理解度に合わせた授業」と「学習の見通しと振り返りの機会」の評価項目に於いて、肯定的回答は80%を得ることができた。芸術科目としての取り組みやすい内容や生徒の理解度に合わせた指導法ができたと考える。また、教科の特性上実技が中心になることもあり、「他者の考えを知る機会」、「考えをまとめたりする場面」においては、否定的回答は20%を超えている。</p>
	授業改善	<p>否定的回答の割合が多い「他者の考えを知る機会」、「考えをまとめたりする場面」については意見交流や実技の発表をする場面を多く設定したり、グループワークや調べ学習等を通じた機会を今後は増やし、改善していきたい。</p> <p>また、引き続き授業内容の取り組みやすさについては、生徒の段階に合わせた指導を行い、常に生徒の様子や取り組み状況等を留意しながら継続して取り組みたい。</p>
情報	集計分析	<p>「取り組みやすく理解度に合わせた授業」の項目と「身につけたことを実感できた」の項目については評価が高く、演習中心の授業としては良いことであると思う。予習復習の項目はパソコンを利用する環境が家に整っていない家庭も多いこともあり低くなっている。それ以外の項目についても肯定的評価が80%となっている。</p>
	授業改善	<p>本時で扱う内容、および、何を理解してほしいのかという目標を明確にし、生徒が興味を持って取り組める授業を展開していきたい。また、パソコンの操作に限らず、情報社会の中でのモラルや知識も深めていきたい。</p>